



県庁通りに店を構えるオプティカル・ヤブウチ

輝く店 元気な店

消費者に愛され、元気に輝いている店を紹介するシリーズです。いい店の経営マインドから活力のヒントを探ります。

こだわりのラインナップで個性を演出

キーワード 変身願望 お客様本位 愛着

OPTICAL YABUUCHI

オプティカルヤブウチ



オーナーの藪内一弘・菊野夫妻

行かなくても、自分の視力を覚えていくけれど、それが安心感につながりますね。自分では絶対選ばないようなフレームも、掛けてみると「オオッ！ なんてことも。新しい自分に出会える場所。それが「ココ」なんです(お客様談)。
同じ様なメガネばかり選ぶお客様には、強いて別なタイプをおススメすることもありますよ。個性的でいいね、どこで買ったの? と聞かれるような。メガネの古い固定観念を「ニュートラル」にして新しいメガネ観にシフトしてみませんか!(菊野さん談)



◀古館伊知郎さんなど、芸能人のオンとオフに密かに愛用されているtheo(テオ)、オプティカルヤブウチのtheoへのコダワリは全国屈指。新しいのどこかノスタルジックなデザイン。すべて平坦、つまり2次元の世界で表現されたフレームは、見た目のインパクトとは裏腹に掛け心地も抜群。一度使うと他のフレームが目に入らなくなるほどハマるのがtheo。(ベルギー/パトリック・フート作)

アン・バレンタインのアイウェアは、他のブランドにはない豊かなカラーコンビネーションが特徴。デザイナーのバレンタイン夫妻は、スペインやイタリアの国境に近いフランスの古都・トゥルス在住。カラフルなフレームのルーツは陽気なラテン気質だ。



「メガネは名刺がわり」と4年で30本作った人も。写真の5本入りケース1箱では足りないお客様は多い。

メガネをオブジェに変えてしまう顔縁タイプのケース(オリジナル)やグラスホルダー、グラスコードなどの小物類も豊富。

新しいスタイルを発信・牽引するメガネショップ

インターネットを使えば全国どこからでもモノと情報をリアルタイムで入手できる現在。新しいスタイルを発信・牽引するのは、中央都市に限ったことではなくなりました。それは、ファッションにおいても同じこと。こじやれた感性と、時流に呼応したメガネショップは、衰退する商店街にあっても光り輝いているのだ。

オーナーのセンスが光る品揃え

福島市の県庁から北に続く、県庁前通り。オプティカルヤブウチ、光り輝く店は、ここにもあった。オーナーの藪内夫妻が世界からセレクトしたブランドの数々は、都心のショップに勝るとも劣らない。それは単に流行をなぞる、売れ筋の品揃えではない。ギャラリーを彷彿させる店内には、オーナー夫妻のセンスをしつかりと主張する、個性溢れるメガネが並んでいる。
オプティカルヤブウチには関東のお客様もいる。店の近くのホテルに宿泊していた大道具(舞台屋)さんが、在福中のわずかな時間に2本購入。その後、都内に戻ってから、もう1本注文してきたとのこと。たまたま取材中にメガネを選んでくれたカップルは、奥様の方が11月に1本買ったばかりなのに、(1月に)また欲しくなってきた店とのこと。こんなエピソードから浮かび

心の琴線に触れるフレーム作り手のストーリーを重視

オーナー夫妻がメガネをセレクトする基準を聞いてみた。「基本は、クオリティ、デザイン、機能性、価格のバランスですね。それから作り手のストーリーも気にしています。どんな想いで作っているのか? まず自分に伝わってくるものがないと、お客様にもおススメできません。最近では量産品が増えて、ストーリーの希薄なメガネが増えて、ストーリーの希薄なメガネだと、やがて物足りなくなるとは思っています。高ければ良いというわけではありません。だから有名ブランドでも、価格の割りに作りが弱かったりすれば仕入れませんし、逆に良いものはマイナーでもセレクトしています。売れ筋だけを揃えずに、自分の琴線にふれたものを育ててみたいなあと、思ったものにこだわりたいですね。(弘さん談) ためてギャラリー風の店内を見回してみる。そこにはメタリックなメガネから、どこか手づくりのアウトドアを残したシャイなメガネまで、楽しく整列している。そこから感じられるのは、オーナー夫妻の柔軟で、しかも力強いメガネへの「愛着」だ。「どんなアクセサリーを身につけるよりも、鮮烈に掛ける人の個性やキャラクターを表現することができる。そんな1本を見つけて欲しいですね。(菊野さん談)」

住所 / 福島市大町9-21
電話・FAX / 024(522)2659
ホームページアドレス
http://www.uyou.gr.jp/yabuuchi/
Eメールアドレス
lunetes@jupiter.plala.or.jp

創業明治6年 売場面積25坪
従業員3人 取扱ブランド約50
メガネフレーム常時1000本
オススメブランドトップ5 = テオ / フォーナインズ / アンバレンタイン / ICペルリン



▶数百本のフレームが納められているキャビネット。オーナーが淹れるコーヒーと季節のスイーツを楽しみながら、お気に入りの1本をチョイスできる。

メガネは鼻や耳ではなく、顔全体でバランス良く掛けるもの。メガネ一筋35年の一弘氏は、外科医並みの加工技術で絶妙な掛心地を生み出す。



上がるのは存在価値のあるメガネショップ。それは、メガネで新しい自分を発見してみたい、変身願望のある人にとって、「外せない」場所。そんなポジティブな人々こそ用達のメガネショップがオプティカルヤブウチなのだ。

固定観念を「ニュートラル」に

眼鏡が似合うかどうかは自分で判断したいし、あまり店の人から勧められるのは苦手というお客様が増えてきている。「ヤブウチさんは変な押し付けがないし、さりげなく教えてくれるのがいいですね。『May - Help you』海外のショップの接遇は、ほんとにお客様本位だと、ヤブウチさんもそれに近いと思う。たまにしか



この店では、何度も通って迷った末に、ようやく「これにします」と決めるお客様が多い。オーナー夫妻が、国内外のメガネ展示会を視察して買い付けた逸品ゆえに、お客様が迷うのもムリはない。